

パワースチームガン取扱説明書

この度は、パワースチームガンをお買い上げ頂き、誠に有難う御座います。
未永くご使用頂く為に、下記の使用法を良くお読みの上、正しくご使用下さいますようお願い致します。

【特 徴】

パワースチームガンは、ボイラー等の配管が一切不要で、100Vの電源だけで柔らかくて強力な蒸気を安定して連続的に出せます。

又、蒸気量の調節やコテとスチームの切替えも、ボリューム調整で簡単に出来ますので、黄変抜きや残留色素抜き、又、その他熱を必要とする薬品などの処理に、変化を確認しながら使用できます。

【付属品及び各部名称】

基本図 【01】



リセット水

基本図 【02】

(A液9 : B剤1の割合で混合して下さい。)

黄変抜き液A

黄変抜き剤B



注水ボトル

黄変抜き剤中和剤

(5～10倍に薄めて使用して下さい。)

パワースチームガン 【Type PST-01】

AC100V/60～500W (FUSE 6A)

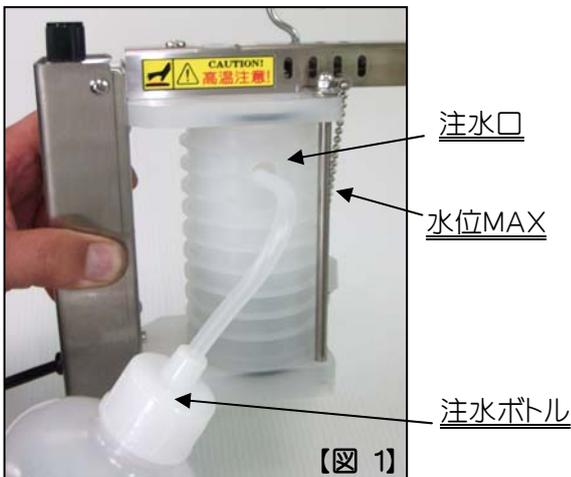
まず はじめに…!!

パワースチームガンは、伝導効率を上げて蒸気を発生させる為に
タンク内に少量の塩を添加します。

この塩の量によって蒸気量が増えたり減ったりしますので、
必ず下記の取扱説明をよく読んで正しくご使用頂きますようお願いいたします。

【使用法】

商品納品時には予め適量の塩がタンク内に添加されております。
使い始めは水（精製水等）のみを注入して下さい。



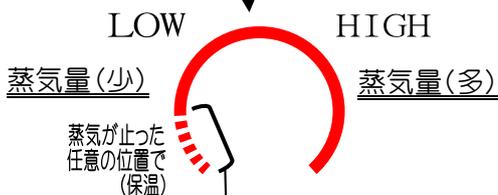
- ① まず、電源を入れる前に、注水口キャップを取り外して、注水ボトルで注水口よりタンクへ水のみを注入して下さい。（必ず水位を守って下さい。入れ過ぎるとノズルから吹き出る恐れがあります。）
- ② 注水口キャップをしっかりと閉めて、電源を入れて下さい。

【注意】

水は必ず精製水等をお使い下さい。
水道水を使うと水中の不純物等がヒーターに付着して蒸気の出が悪くなる事があります。

- ③ 電源を入れた後、ボリュームを HIGH の位置まで回して下さい。（LOW の位置のままではタンク内の水が沸騰しません）
- ④ 電源を入れ始めた時のみ蒸気発生まで 2 分程掛かります。使い続ける時は、その都度電源を切らずに、コントロールダイヤルを保温の位置（蒸気がちょうど止まった位置）にしておくとタンク内の水が温められた状態になり、コントロールダイヤルを回すとすぐに蒸気が出てきます。

※ダイヤルを蒸気がちょうど止まった位置以上に左に回し過ぎると、タンク内の水が冷めてしまいすぐに蒸気が出なくなります。



【保温状態】
蒸気がちょうど止まった位置にしておくと、次回使用時にすぐに蒸気が出てきます。

注意！《LOW (保温) の範囲内で調整が出来ない場合…》

◎ 保温の範囲なのに蒸気が出てしまう。
の場合は、次ページの【タンク内の塩分濃度調整】を参考に再調整して下さい。

- ⑥ コントロールダイヤルを回すことによって蒸気の調整が簡単に出来ます。用途に合わせて調節してご使用下さい。またノズルの先端は温度が上がっておりますので、コテとしてもご利用できます。作業内容によって使い分けて下さい。

【タンク内の塩分濃度調整】



◎通常使用時は
水(精製水)のみを入れて下さい。

- ① 納品時にはタンク内に適量の塩が投入されておりますので、水(精製水等)のみを入れて下さい。
- ② 通常使用にてタンク内の水が無くなったり減ってきた場合も、水(精製水等)のみを入れて下さい。

注意！

リセット水を注水すると、塩分濃度が高くなり保温状態にしても蒸気が出続けたり、ダイヤルをHIGHまで上げた時にヒューズが切れたりします。

《こんな場合は下記を参照にタンク内の塩分濃度を調整して下さい》

症 状	原 因	対 処 法
◎タンク内の水を捨ててしまった。 ◎タンクに水を入れすぎて、沸騰したときにノズルから吹きこぼれてしまった。	塩分濃度が変化してしまいます。	<p>下記の手順にて、タンク内の塩分濃度をリセットして下さい。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 一度タンク内の水を捨てて下さい。 ② タンク内を水で2～3回すすいでしっかりと洗浄して下さい。 ③ 付属のリセット水を、残さないように1本全てタンクに注水して下さい。 ④ 規定量を超えないように注意しながら水(精製水等)を注水して下さい。
◎ダイヤルを保温の状態にしても蒸気が出る。	塩分濃度が濃くなり、蒸気発生率が高くなっています。	
◎電源を入れるとヒューズが切れる	塩分濃度が濃くなり、通電性が高まり規定よりも多くの電気が流れている。	
◎ダイヤルを保温の状態から上げて、すぐに蒸気出ない。	塩分濃度が薄くなり、蒸気発生率が低くなっています。	

故障かなと思う前に……。

症 状	原 因	対 処 法
電源を入れても蒸気が出ない	① 電源が入っていますか？ ② コントロールダイヤルが上がってますか？ ③ ヒューズが切れていませんか？	①・②基本図 01 を参考に確認してください。 ③ タンク内の塩分濃度が濃すぎて規定以上の電流が流れてしまっています。塩分濃度調整を参考に濃度をリセットしてからヒューズを交換して下さい(6A) ①②③で解消出来ない場合は断線等の故障が考えられます。お手数ですがご購入店にご連絡頂きますようお願いいたします。
ノズルから水滴が落ちる	① 電源入れて暫くの間は、ノズル自体が完全に温まっていない為に水滴が落ちる事があります。 ② タンク内の水の量が多くて溢れている可能性があります。	① 電源を入れてから5～10分ほどでノズルが温まり、その後は水滴は出なくなります。 ② タンク内の水の量を規定値以下に調整して下さい。 ①②で解消出来ない場合はノズル内のヒーターの故障が考えられます。お手数ですがご購入店にご連絡頂きますようお願いいたします。
電源を入れるとヒューズが切れる	タンク内の塩分濃度が濃すぎて規定以上の電流が流れてしまっています。	塩分濃度調整を参考に濃度をリセットしてからヒューズを交換して下さい(6A)
ダイヤルを保温の状態にしても蒸気が出る。	塩分濃度が濃くなり、蒸気発生率が高くなっています。	【タンク内の塩分濃度調整】を参考に塩分濃度をリセットして下さい。
ダイヤルを保温の状態から上げて、すぐに蒸気が出ない。	保温状態にしておく時、コントロールダイヤルを必要以上に左に回していませんか？	ちょうど蒸気が止まった状態が最適な保温状態となります。調整してご使用下さい。
	塩分濃度が薄くなり、蒸気発生率が低くなっています。	【タンク内の塩分濃度調整】を参考に塩分濃度をリセットして下さい。
<p>上記内容からお解かり頂けるように、より良い蒸気発生には塩分濃度に非常に左右されます。 【タンク内の塩分濃度調整】を良くお読み頂き、最適な状態でご使用頂きますようお願い致します。</p>		

御注意

- タンク内に入れる塩の量は非常に重要ですので“タンク内の塩分濃度調整”をよく読んで必ずお守り下さい。
- タンクに入れる水は、必ず精製水をお使い下さい。水道水を使うと水中の不純物等がヒーターに付着して蒸気の出が悪くなる事があります。(保障対象外となります)
- 安全弁の紛失にはご注意下さい。開いたままの状態ですと本体を傾けた状態で熱湯がこぼれて火傷をする恐れがあります。
- 一日の仕事が終わった後は、必ず電源を切って下さい。
- コテ先及びその周辺は非常に高温になっていますので、取扱には十分注意して下さい。
- パワースチームガンをシミ抜き以外の目的で使用しないで下さい。
- 本体のタンク内に設置されております電極棒は構造上消耗品となります。使用頻度にもよりますが、およそ2年に1度点検にお出し下さいますようお願い申し上げます。

株式会社 サン京都

〒600-8885 京都市下京区七条通り春日下る一筋目西入る
 TEL(075)315-2808(代) FAX(075)321-1895
 URL—<http://www.sunkyo.com> MAIL—info@sunkyo.com

【薬品】

付属の薬品は、主に黄変抜き用としてご使用下さい。

No.104-A・Bセット(黄変取り)は、すべての生地に使用できますが、ものによって色が抜ける場合もありますので必ず目立たない所でテストを行ってから使用して下さい。
(カシミヤ・アンゴラ・パシュミナ・モヘア等は深追いしない事！)

No.104 は(A液 9):(B剤 1)の割合で混合して使用します。(目安で結構です)

(A&Bの混合液)及び(精製水で薄めたC)は時間が経過すると徐々に効果が弱くなります。
より良い作業をしていただく為に1日毎に作り直して頂く事をお勧めいたします。

No.104(黄変取り)の通常的使用方法

☆ No.104-A & B 混合液(酸性系薬品)

テストを行っても、地色に異常がない場合は、シミの部分にNo.104混合液を筆等で塗布し、パワースチームガンで蒸気を当てます。パワースチームガンの蒸気は高温ですので、生地によっては溶ける恐れがありますので、生地にノズルを近づけ過ぎないように注意して下さい。(3~4cm位でOK)
ききめが弱い場合は、筆で塗布しながら蒸気を当てると速く漂白できます。

☆ No.104-C 中和

漂白作業が終了しましたら、精製水等で5~10倍に薄めたNo.104C(中和剤)又はサビ取りスポットターA(中和用に1~3%位に薄めたもの)や、氷酢酸(2~3%)で中和してから、バキュームで吸引させながら水のシルクビートガンで充分にすすいで下さい。

No.104混合液で漂白して若干黄ばみが残る場合でも、サビ取りスポットターA(中和用に1~3%位に薄めたもの)や氷酢酸(2~3%)の酸性系で中和すれば黄ばみを除去できる場合があります。

※ ウール等の生地には色の発色をよくする為、蛍光剤を含んだものがあります。
この場合、酸化漂白すると逆に黄色く変色することがあります。
これを、戻すにはスポットターAか氷酢酸2%で中和すれば黄変と同時に変色も除去出来ます。

No.104-A & Bセット(黄変取り)の上手な使用方法 (色素の若干弱いもの)

色素の弱いものは、漂白しようとする場所を最初に水で濡らしておいてからNo.104混合液を筆で塗布しパワースチームガンにて蒸気をあてます。

No.104原液で漂白するよりも、水でぬれている分薄まり、やわらかく漂白できます。(ボカシ抜き)

色を飛ばさないコツ

- ① 必ず、目立たない所でテストをする事。
- ② たくさんシミがある場合、小さい所からスタートする事。
- ③ 小さいシミがない場合、シミの一部でテストをする事。
- ④ 生地の温度が染の温度を超えない事。(蒸気を当てすぎない。時々、生地の温度をさます事。)
- ⑤ シミの部分より大きめに生地を濡らしてから漂白剤を塗布する。(ぼかし抜き)